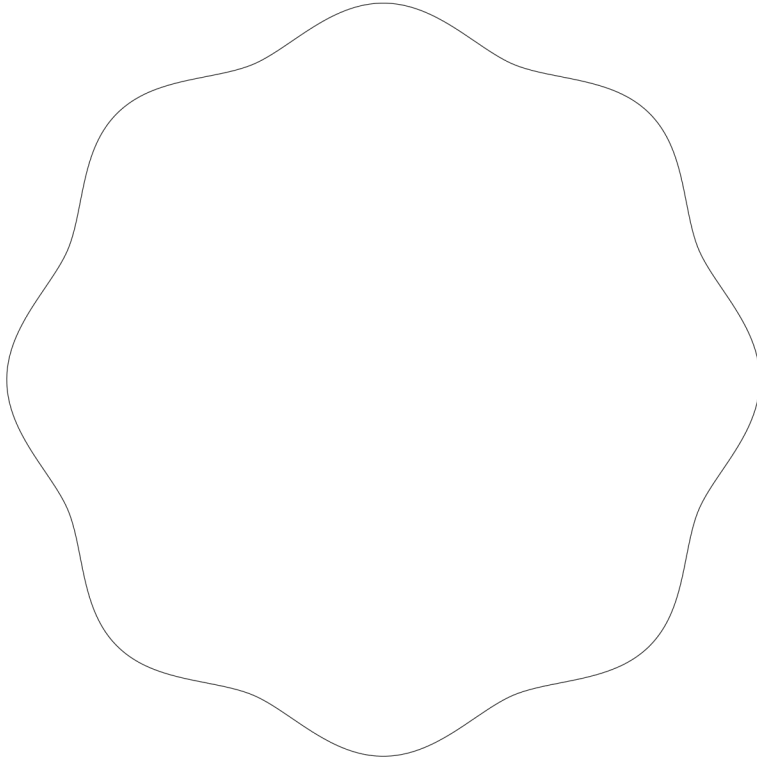


三宅島大学プロジェクト実行委員会×東京アートポイント計画

三宅島大学

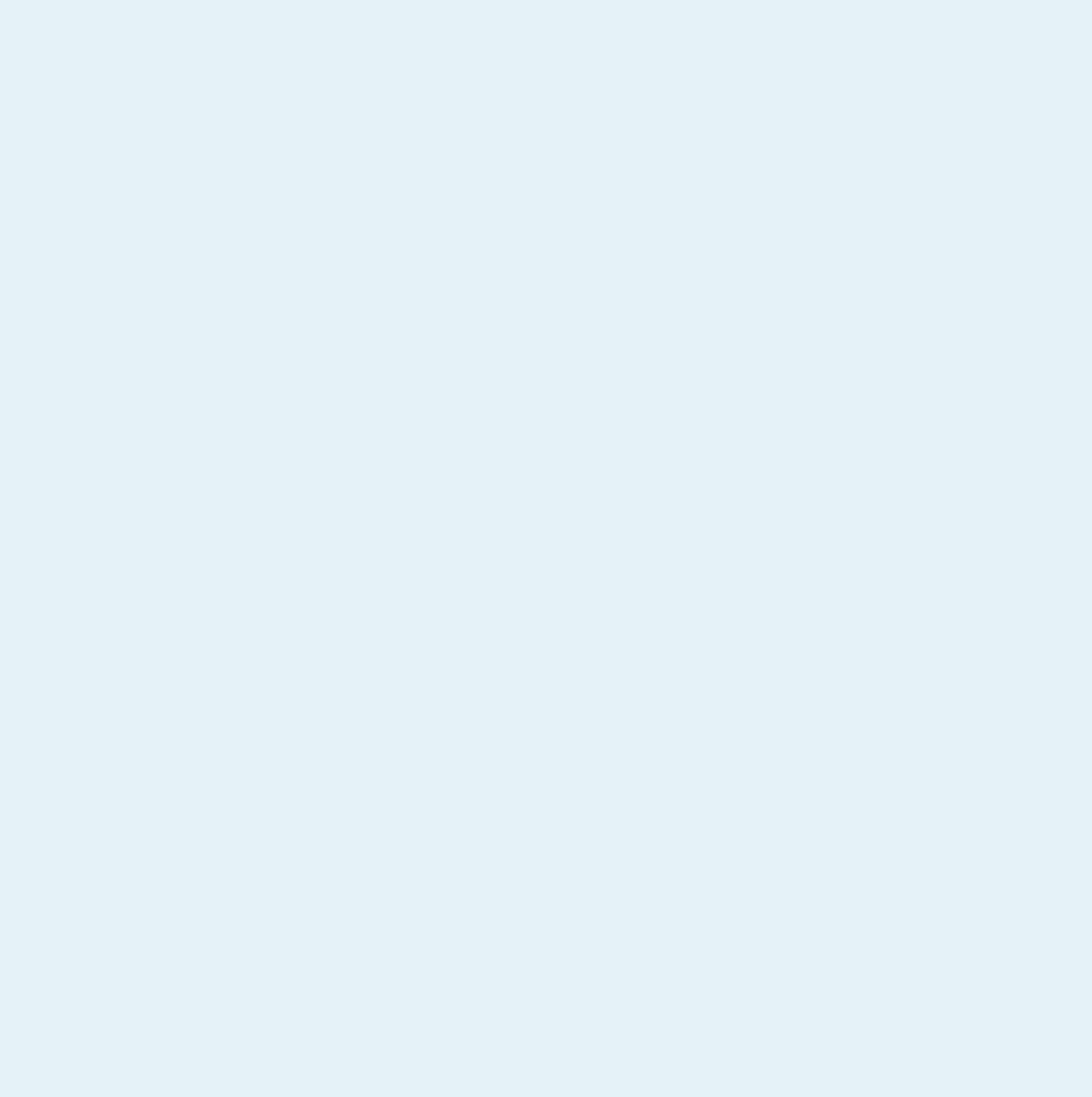
MIYAKEJIMA UNIVERSITY



島でまなび、
島でおしえ、
島をかんがえる。



東京文化発信
プロジェクト



ようこそ、三宅島大学へ

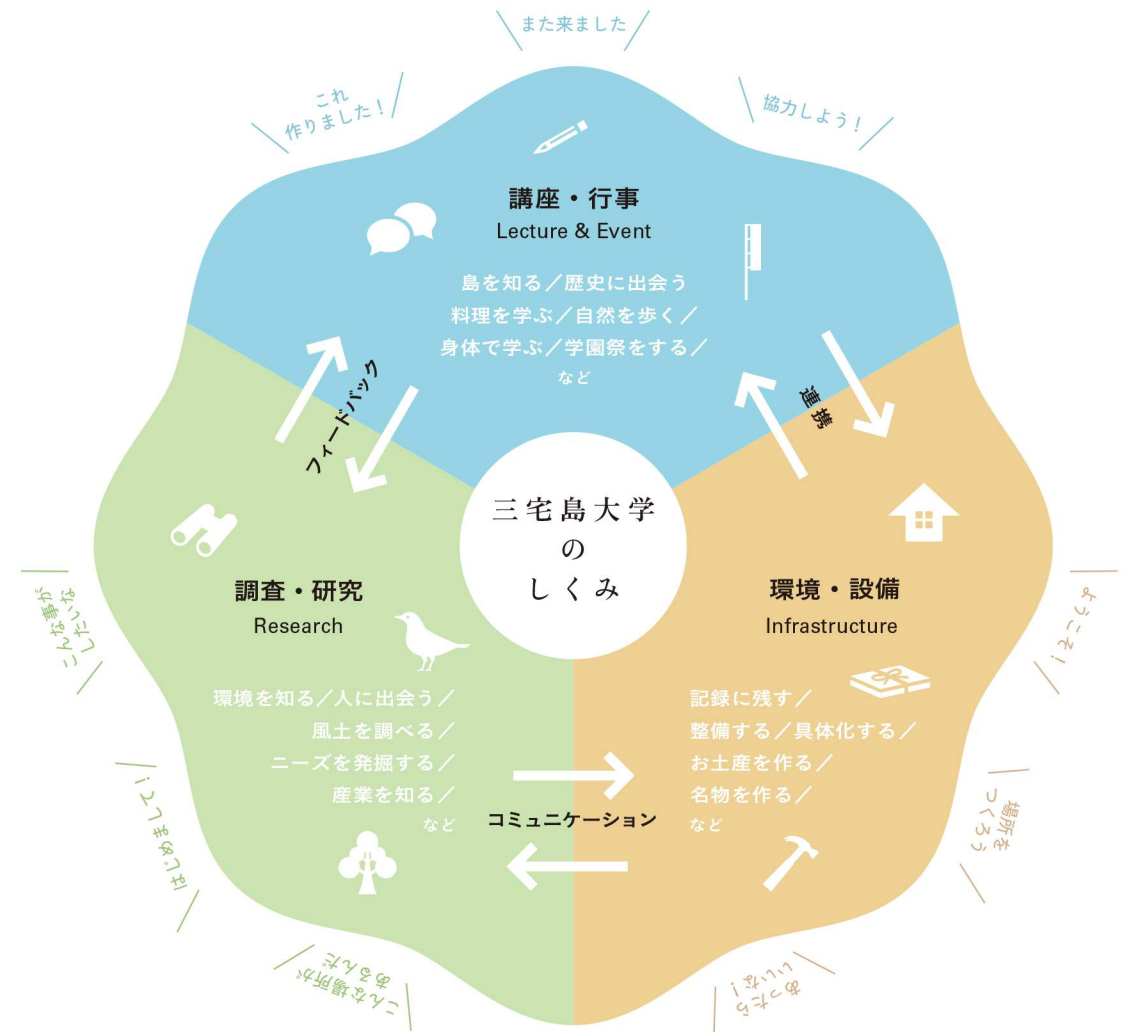
「三宅島大学」とは

— 〈未来のいま〉に出会う場所

「三宅島大学」は、三宅島全体を〈大学〉に見立てて、さまざまな「学び」の場を提供する仕組みです。それは、自然との長い関わりについて考え、私たちの「想う力」を育む場です。学校教育法上で定められた正規の大学ではありませんが、〈大学〉の講座やプログラムを通じて人びとが出会い、のびのびと語らう「学び」の場をデザインし、コミュニケーションの誘発を試みるプロジェクトです。

「三宅島大学」は、講義や実習ばかりではなく、課外活動や〈学生街〉の役割もふくめて構想したいと考えています。既存のさまざまな実践の理解、豊かな地域資産の発見・再発見を通じて、多様な連携の可能性を見出すことも重要な課題として位置づけています。

誰もが学生に、あるいは教員になって、三宅島での「学び」が始まります。三宅島には、〈未来のいま〉があります。人びとや自然に向き合い、逞しくて優しい未来を実感するために、船に乗りましょう。





溶岩流が波で侵食されてできたメガネ岩

多くの人が集う「学びの場」



三宅島大学 学長

平野 祐康

Hirano Sukeyasu

三宅村長

平成23年9月19日、待望の三宅島大学が開校いたします。

三宅島は大噴火による平成12年9月の全島避難から11年、平成17年2月の避難解除からは既に6年半が過ぎましたが、火山ガスは今も続いて村民生活や観光などに大きな影響を与えており、三宅島は未だ復興の途上にあります。

三宅島大学は、島全体を大学に見立て、三宅島を舞台に各種の講座やアートプログラムの実施、交流拠点の整備、情報発信ツールの開発、人材の育成などを行いながら、三宅島の地域資産を再発見・再評価し、全国へと発信していくことを目的とした芸術文化による復興事業です。子どもから大人まで誰もが入学でき、誰もが先生になることができる、ユニークな大学を目指しております。島内外の人々が出会い、語りあう「学びの場」となるよう、魅力あり、親しみのもてる講座やアートプログラムを展開していきます。

「島でまなび、島でおしえ、島をかながえる」この三宅島大学に多くの人がつどっていただきたいと思います。

旅のすゝめ



三宅島大学 教授

加藤文俊

Kato Fumitoshi

社会学者／
慶應義塾大学
環境情報学部 教授

竹芝栈橋で、船に乗る。6時間半ほど揺られて、明け方になると三宅島が見えてくる。その三宅島に〈大学〉をつくることになった。「本物」ではないが、その本質は「真正」なものだ。人びとが集い、自由闊達に語り、さまざまな問題に取り組みながら、暮らしに活きる知識や知恵を生み出していく。それがあれば、もう立派な〈大学〉なのだ。余計なものは、いまのところない。だからこそ、その本質に触れるためには、マジメになる必要がある。6時間半の船旅は、いささか長いとは思いますが、マジメになるために、ゆっくりと心と身体の準備をするにはちょうどいい。

もとより、人は人に会うために旅をしてきた。話を聞くだけではない。しぐさや、寡黙な背中さえもが、多くを伝えてくれる。マジメになったぼくたちは、島でたくさんのことを学ぶ。海も山も、もちろん人びとも、島全体が教室に、そして教科書になる。じぶんの師匠は、じぶんでさがすのだ。いま流行りの「エコ」「ソーシャル」「シェア」などという、ややこしいカタカナことばは、最初から必要ない。時には無慈悲な自然と向き合い、ずっと培われてきた絆を大切に、お互いに分かち合う。こうした思想も態度も、わざわざことばにするまでもなく、人びとの暮らしのなかにとけ込んでいるからだ。三宅島の人びとの優しさと逞しさの源泉は、いったい何だろう。それを知ることが、ぼくたちの未来を考えるヒントになるにちがいない。

「三宅島大学」は、みんなで作るものだ。決して、船に乗って島に向かう人のためだけにあるのではない。島の人どうしも出会い、学び合う。ぼくたちが島に行くことで、あたらしい関係がつくられていく。三宅島で〈あたりまえ〉なことは、〈あたりまえ〉であるがゆえに、毎日の生活では見えにくくなっているかもしれない。そんなとき、三宅島で学ぶぼくたちの存在が、気づきのきっかけになるといい。「よそ者」の目線で三宅島に接近すれば、島がもつさまざまな「資源」の発見・再発見につながるだろう。豊かな自然、歴史と伝統、優しくて逞しい人びと。多彩な「資源」を、さらに永きにわたって価値をもたらす「資産」へと変えていく。「三宅島大学」は、そのための〈しかけ〉だ。こ

の大きな〈しかけ〉をつくっていくのは、なかなか大変だ。だから、焦らずにゆっくりとすすめたい。三宅島が「大学」を変え、「大学」が三宅島を変える。そういうおつき合いのはじまりだ。

先日は、錆ヶ浜港で船に乗った。まだ数回しか体験していないが、送る人も送られる人も、いつも船出の場面はせつない。デッキに立って、だんだんちいさくなっていく三宅島を眺めていると、不思議なことに、哀しいながらも、また来たいという気持ちにさせられる。なぜだか涙腺が緩む。それほどに愛おしい旅を、学ぶための旅を、しばらくは続けてみよう。

大学とは何か・島とは何か？



三宅島大学 教授

日比野克彦

Hibino Katsuhiko

アーティスト/
東京芸術大学
美術学部
先端芸術表現科教授

「島を大学に見立てるということは、どういうことなのですか？」

という質問を自分に投げかけてみました。

この質問に答えるために、「大学とは何か・島とは何か？互いの共通項は？」に対しての答えが以下の6つ。

□ 共通項その1

島には入島するというゲートがある。

大学には入学するというゲートがある。

□ 共通項その2

島には絶えず人が出入りしている。

大学には絶えず人が出入りしている。

□ 共通項その3

島には一つのことをやり通している人がいる。

大学には一つのことをやり通している人がいる。

□ 共通項その4

島は世間とは距離をおいてゆっくり時間が流れているようだといわれる。

大学は世間とは距離をおいてゆっくり時間が流れているようだといわれる。

□ 共通項その5

三宅島では20年という区切りの時間軸を意識の中に持っている。

大学では4年という区切りの時間軸を意識の中に持っている。

□ 共通項その6

三宅島は地球の時間と人の時間を教えてくれる。

三宅島大学は地球の時間と人の時間を教えてくれる。

ということで

三宅島は三宅島大学になります。

「三宅島大学」開校によせて



森 司

Mori Tsukasa

東京アートポイント計画
ディレクター

三宅島を丸ごと大学にするプロジェクト「三宅島大学」が始動します。三宅村／三宅島大学プロジェクト実行委員会と東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団が共催で実施する本事業は、東京文化発信プロジェクトにおける拠点形成事業「東京アートポイント計画」のアートプロジェクトとして展開されます。「三宅島大学」の成功目標は、「三宅島に『三宅島大学』があって良かった！」と、島内外の人々に愛され必要とされる事業になること。島を知るために124単位の取得が卒業条件になっている三宅島大学は、必修科目の他に、師匠もテーマも

自ら探し三宅島を深く知る学びのスタイルを提唱します。また三宅島大学として、三宅島に関する調査研究を展開し、ゼミから得たヒントを発展させ、社会連携事業へと展開する構想も膨らんでいます。三宅島大学プロジェクトがこのような活動を可能にするためには、島内外の多彩な人々からなる、教授、講師、学生役としての参加協力が必要です。多くの人に活動の場として開かれた「三宅島大学」という舞台の可能性は無尽大。みんなで作り上げて行く「三宅島大学」プロジェクトに是非ご参加ください。

島の新たな学びの場「三宅島大学」

三宅島は自然も人も魅力ある面白い場所です。各方面のスペシャリストが、この三宅島を舞台に本気で面白いことをやろうと、大学の運営に携わってくれています。大学は私達の関わり次第で何色にも変化していくようにデザインされているようです。私達が本気で取り組みれば、自ずと面白い物が産みだされるのでしょうか。三宅島の魅力を探求、体験できる、旅人も島民も相互に学びが得られる、そんな場にしていきたいですね。

三宅島自然ふれあいセンターアカコッコ館
チーフレンジャー

篠木秀紀

開校によせて
応援メッセージを
いただきました。

生きた“博物館”三宅島へようこそ

三宅島は火山島です。噴火の歴史が独特な地形と海岸を形成し、地球の息吹を感じることができます。また、アカコッコをはじめ珍しい動植物の宝庫、黒潮の恵みを受ける釣りやマリンスポーツのメッカ、そして独自の芸能等々。この生きた“博物館”に「三宅島大学」が開校されることは誠に意義深いことであり、ご成功を祈ります！

東海汽船株式会社 旅客部長
植松正孝

こんなところも 教室に

「三宅島大学」は、島全体を「大学」と見立て、さまざまな『学び』と『出会い』の場をつくりだします。



● **椎の原生林** 三宅島の木「スダジイ」は、島全体に生育しています。樹齢数百年と推定される大木も。



● 大 路 池

約2500年前の火山爆発によってできた火口湖。昔ながらの照葉樹林が残されており、周囲の森には国の天然記念物のアカコッコなど様々な希少な野鳥たちが暮らしています。



● 噴 火 跡

噴火の爪痕や火山灰が積もった地層、溶岩も目の前で見るができます。旧阿古小・中学校跡は当時のままの姿で残っており、噴火の凄まじさを物語っています。



● 船 客 待 合 所

島の玄関である「港」も三宅島大学のキャンパスに。島内に大型客船発着場所は三カ所あり、阿古船客待合所では「大学開校式典(平成23年9月19日)」を開催。



● 海・海岸線

場所によって表情の違う海岸線は、海に囲まれた島ならではのパノラマビューポイント。天気のいい日に壮大な海を眺めると付近の島や遠く富士山を望むこともできます。

※今後の講座情報や過去の活動は、随時ホームページにて公開しております。→ <http://www.miyakejima-university.jp/>

三宅島

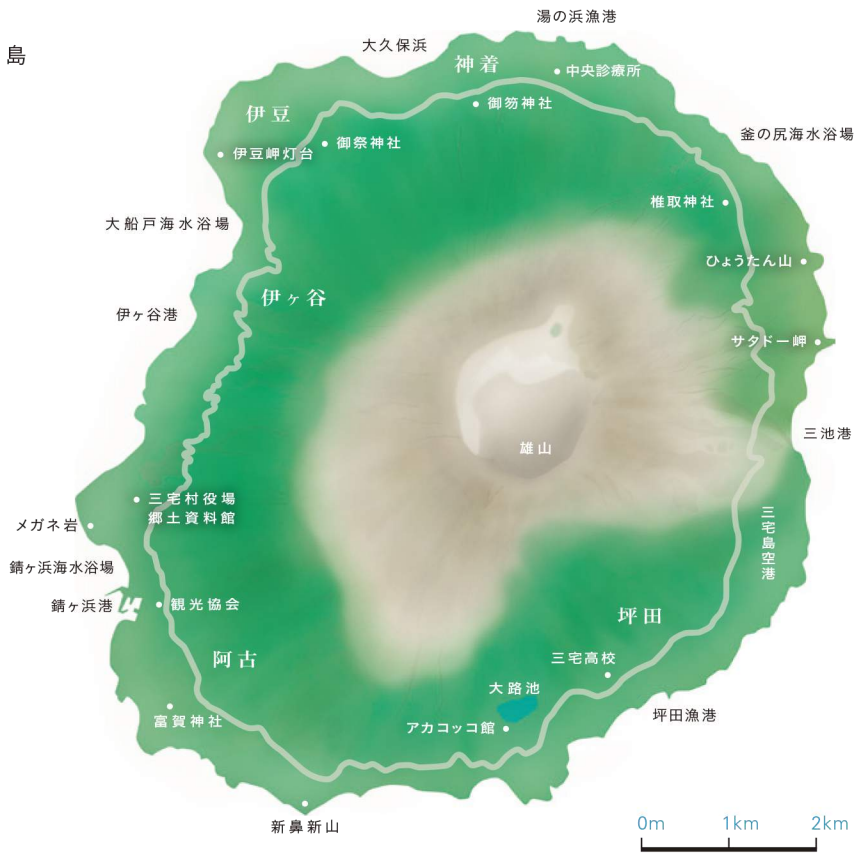
東京から南南西へ180キロ
真っ青な太平洋に囲まれた火山島

- ◎ 面積:約55.5km²
- ◎ 周囲:約38km
- ◎ 総人口:2,721人
- ◎ 世帯数:1,686世帯
(※平成23年4月現在)

三宅島は、島全体が富士箱根伊豆国立公園に指定されている自然豊かな島です。また、富士火山帯に含まれる火山島で、平成12年9月に全島避難指示が発令された噴火からさかのぼると、約20年周期で噴火を繰り返しています。平成12年の噴火は、避難中も島内に火山ガスを放出し続け、島民が島へ戻ることができたのは平成17年2月、約4年半後のことでした。噴火によって形成された独特な景観や、国指定の天然記念物アカコッコなどの野鳥が生息する森をはじめ、特色ある自然と人々とが共存する東京の島です。

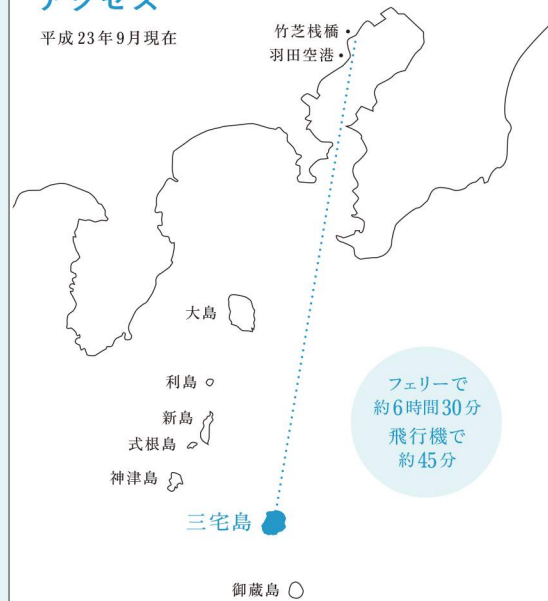
成長し続ける三宅島

- 約2500年前 周囲2km、水深30mの火口湖、大路池が出現。海の近くにある稀有な淡水湖。
- 1940年 山腹と海中で噴火発生。ひょうたん山(標高64m、赤錆びた色の山)が形成された。
- 1962年 噴火発生。メガネ岩の片方が壊れてしまった。
- 1983年 噴火発生。鼻を横に倒したようにそびえる新鼻新山が噴火によって形成された。
- 2000年 噴火発生。雄山山頂が陥没し、直径約1600mの火口(カルデラ)が生じる。標高は815mから775mへ変化した。



アクセス

平成23年9月現在



海路:大型客船 東京-三宅島-御蔵島-八丈島航路

東京・竹芝桟橋より、東海汽船大型客船が毎日就航しています。

東京 22:20 発 — 三宅島 5:00 着
三宅島 14:20 発 — 東京 20:50 着

東海汽船予約センター ☎ 03-5472-9999

空路:飛行機

東京羽田空港より、ANA飛行機が毎日就航しています。

羽田 11:45 発 — 三宅島 12:30 着
三宅島 13:15 発 — 羽田 13:55 着

ANA国内線予約・案内センター ☎ 0570-029-222

当日の運行状況は天候によって変更になる場合があります。
各社にお問い合わせの上、お出かけください。

編集

山城大督
吉岡理恵
森司(東京文化発信プロジェクト室)
芦部玲奈(東京文化発信プロジェクト室)

デザイン

中西要介

写真

川瀬一絵(ゆかい)

印刷

株式会社ケーコム

発行

三宅島大学

平成23年9月発行

主催

東京都
東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)
三宅島大学プロジェクト実行委員会

お問合せ

三宅村役場政策推進室
(三宅島大学プロジェクト実行委員会事務局)

☎ 04994-5-0984

✉ info@miyakejima-university.jp

○東京アートポイント計画
東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。
<http://www.bh-project.jp/>



三宅島大学

MIYAKEJIMA UNIVERSITY

<http://www.miyakejima-university.jp/>